



企画に参加した沢田瑞也さんは「話し合いを重ねて内容が固まっていきやりがいを感じました。今後もまちの活力につながる活動したい」と話していました

小林高校生有志が企画した 手作りのSDGs イベント開催

3月27日、KITTO 小林で「ミライノコバヤシ～ミラコバSDGsプロジェクト～」が開催されました。TENAMU 交流スペースの制服譲渡会などのイベントに合わせ、コバ高生有志約30人が小学生向けSDGsイベントを企画。古新聞などの廃材を使った図工・工作コーナーや手作り縁日、SDGsのクイズなどの企画で来場者を楽しませました。

吉都線利用促進と沿線の魅力発信へ 吉都線ひと駅ウオークを初開催

3月27日、JR吉都線乗車とウォーキングをセットにしたイベント「吉都線ひと駅ウオーク in 西小林駅」が開催されました。JR吉都線利用促進協議会が、吉都線の利用促進と沿線の魅力発信のため初めて開催。参加者は、スタート地点への集合やゴール後の移動に吉都線を利用し、沿線の風景や関係団体からのおもてなしを楽しみました。



参加した脳田菜摘さんは「普段乗らない吉都線に、娘は大興奮。ウォーキングでは、娘と春の草花を見つけながら楽しく歩けました」と話していました

トヨタカローラが市内小学生に 子ども向け反射材などを寄贈

3月25日、トヨタカローラ宮崎株式会社（御手洗才治代表取締役社長）が市内小学3年生（現4年生）345人に対して、子ども向け反射材とリーフレットを寄贈しました。寄贈は、宮崎トヨタグループの「マチホタル活動」の一環。事故防止のため、暗い道でも光が溢れるようにという思いから県内で活動を行っています。



御手洗社長は「自動車業界の悲願である交通事故0を目指し、1件でも事故を減らせることを願って寄贈させていただきます」と話していました



この教室は、市と健康増進に関する連携協定を結んでいる明治安田生命保険相互会社協力のもと実現されました

テゲバジャーロ宮崎の選手が 市内小中学生にサッカーを指導

3月27日、県内初のプロサッカーチームとなったテゲバジャーロ宮崎の選手を招いてサッカー教室が開催されました。教室には、市内の小・中学生約80人が参加。鬼ごっこを用いた基本的動作の練習やゲーム形式の練習によりプロの指導を受けました。子どもたちは普段目にかかることのないプロ選手の高い技術力を間近で体感しました。



マンゴー部会は、ネット販売などニーズに合わせた販売にも取り組むなど、コロナ禍に対応しながら、質のよいマンゴーの生産・販売に力を入れています

JA こばやしマンゴー部会が 宮崎日日新聞農業技術賞を受賞

JA こばやしマンゴー部会（松田泰一部会長）が、第64回宮崎日日新聞農業技術賞を受賞し、3月18日、市長に受賞を報告しました。受賞は、平成18年以来2度目。代表してあいさつした松田部会長は、「ひなたGAP取得や販売への取り組みを評価していただいた。小林ブランドを育てるため、さらに精進したい」と話していました。

国際ソロプチミスト小林が認証30周年

3月23日、国際ソロプチミスト小林（森岡康子会長）の認証30周年記念式典が開催されました。同団体は女性の人権と地位を高める奉仕活動をしている団体。式典では、森岡会長から市内の小・中学校21校へ生理用品が寄贈されました。



認知症患者を地域で見守る声かけ体験

3月24日、三ヶ野山地区のeサポーターが、野尻町いきいきコミュニティセンターで認知症高齢者の見守り声かけ体験を行いました。高齢者役への声かけ体験や過去の体験を共有するグループワークを行い、見守りが必要な人に出会った時の対応を学びました。



小林地区交通安全協会小林支部が 交通安全功労者等県知事表彰を受賞

2月8日、地域の交通安全教育や交通事故防止に大きく貢献した団体に贈られる、「交通安全功労者等宮崎県知事表彰」を小林地区交通安全協会小林支部（内一幸支部長）が受賞しました。同団体は日頃から、教育施設、高齢者クラブでの交通安全教室や、交通量の多い街頭での交通指導などを行い、地域に密着した交通安全活動を行っています。



内支部長は「コロナ禍の時期だからこそ協会一丸となって事故防止活動に努めることが使命。今後はさらなる交通安全啓発活動に努めたい」と話しました

前田則雄さんが旭日単光章を受章

3月14日、長年にわたり地域の発展に尽力し、旭日単光章を受章された前田則雄さんに、野尻庁舎で伝達式が行われました。前田さんは3期12年にわたり野尻町議会議員を務め、住民福祉の向上や地域の産業振興に貢献したことに対して受章しました。



小林レッドフェニックスが全国大会へ

3月17日、小林ミニレッドフェニックスがミニバスケットボールの全国大会出場を前に市長を表敬訪問しました。主将の松田颯音さんは「主将としてしっかりチームに指示をしていきたい。県代表としてがんばります」と力強く抱負を語りました。



東京大学先端研との連携協定にかかる市職員の検討チームが AI などの先端技術を使ったまちづくりのアイデアを報告

3月22日、「小林市と東京大学先端科学技術研究センターとの連携協定にかかる活動報告会」が開催されました。市では昨年6月の連携協定締結後、AIなどの先端技術を活用したまちづくりを検討するため、入庁3～4年目職員による研修チームと中堅職員によるプロジェクトチームを立ち上

げ。東京大学の松原仁教授、牧原出教授、稲見昌彦教授の助言を受けながら、研修チームが20～30年後を見据えたまちづくり、プロジェクトチームが市の課題解決を目指して検討を重ねてきました。今後、同センターと連携しながら、実現可能なアイデアの実証実験を行う予定です。



和牛・乳牛 64 頭、枝肉 47 頭が会場・出品 小林市総合畜産共進会

4月7日、第17回小林市総合畜産共進会が小林地域家畜市場で行われました。和牛3部門に52頭、乳牛4部門に12頭が会場し、和牛（種牛）は下村美輝さん、乳牛は永田一成さんがグランドチャンピオンを獲得。また、4月5日に開催された和牛（枝肉）では、元澤雄治さんが金賞を獲得しました。共進会の最後には、今年10月に鹿児島県で開催予定の「第12回全国和牛能力共進会」への出品予定農家の紹介と激励も行われました。

Photo 1 種牛の部グランドチャンピオン下村さんとちよちよ号
2 乳牛の各部門で優等1席を獲得した受賞者と関係者
3 枝肉の部金賞（首席）元澤さん

結果(順位順・敬称略)	
<p>■肉用種牛の部</p> <p>▼育成1類=箕春彦、黒木祐一郎、新田幹雄</p> <p>▼育成2類=下村美輝、立山健二、橋満公夫</p> <p>▼雌子牛=山田宏樹、永井幹男、山田和博、中別府篤久、夏木佳忠</p>	<p>■乳用種の部</p> <p>▼育成1類=温水聖</p> <p>▼育成2類=中村大輝</p> <p>▼育成3類=谷口俊文</p> <p>▼経産牛4類=永田一成</p> <p>■肉用種枝肉の部</p> <p>元澤雄治、小田孝一、株式会社石川牧場、栗巣野愛、坂下牧場</p>



宣誓する湯川さん。消防団員は、地域の消防防災のリーダーとして市民の安心安全を守るという重要な役割を担っています

市民の生命・財産を守る 小林市消防団入退団式を開催

4月3日、令和4年度小林市消防団入退団式が須木総合ふるさとセンターで開催されました。21人が退団、新たに9人が入団し、今年度は491人が消防団活動にあたります。入団者を代表して第2分団第3部（小林地区）湯川達也さんは「住民の生命、身体、財産を保護し、郷土愛護の精神に基づき使命達成に努めます」と宣誓しました。

須木地区で春の物産販売を開催

4月9日、すきむらんどのかじかの湯駐車で物産販売が開催されました。須木地区内の業者による柚子や栗の特産品の販売のほか、市外からも食料品や衣料品販売業者の出店がありました。当日は天気にも恵まれ、会場は多くの来場者で賑わいました。



指先を使って脳の活性化

3月の野尻地区生きがい学級では、文化的講座の一環で、日常使いに手頃な小箱作りに挑戦しました。普段は三ヶ野山教室の受講生である城戸愛子さんが講師となり、受講生の製作の進み具合をうかがいながら、綺麗に作るコツを教えていました。



アウトドア情報の発信拠点が 花の駅生駒高原内にオープン

3月27日、小林まちづくり株式会社（柗崎庄二代表取締役）が主体となり、アウトドア情報の発信や案内を目的とする案内所「アウトドアステーション生駒」が花の駅生駒高原内に開設されました。案内所では、Eバイク（電動アシスト機能付きスポーツ自転車）のレンタルや生駒エリアを拠点とした登山コースの案内、イベントの企画を行います。



登山やサイクリングは、自然を生かした少人数で楽しむことのできる新しい観光コンテンツとして注目されており、生駒周辺観光の誘客が期待されます

人道危機への支援の輪が広がっています

市内で、戦闘が激化するウクライナの人道危機への支援の輪が広がっています。市内の黒木茶道教室（真方地区）では、3月27日に定例の「春のお茶会」を開催。参加料の一部や参加者からの募金を、日本赤十字社宮崎県支部小林市地区に寄付しました。



市内小中学校で入学式が開催

4月8日に市内中学校、11日に小学校の令和4年度入学式が行われ、小学校368人、中学校336人の新入生が入学しました。このうち須木小学校では、男子児童3人、女子児童2人が入学。子どもたちは新しい環境に、期待と不安で胸を膨らませていました。

